

本山 健悟さんのプレゼン(「徐 誠敏ゼミで考える
海外留学の経験から学ぶもの」)から学んだもの

2019年度3年次ポジベーションゼミ(徐誠敏ゼミ)の第12回目のプレゼンテーション

2019.7.12(金)

《本山 健吾さん》

今回、徐先生のゼミ内で自身の留学体験談を発表させていただき、良い経験が出来ました。ありがとうございました。自身の体験を振り返りながらどのように伝えればよいか模索しながらの発表でしたが、話を聞いてくれた学生さんたちからは積極的に質問ができたので、少しでも伝えられたことがあったのかと思っています。今回の話を聞いた学生さんが私の伝えたかった「チャレンジをすることが、その後の人生において何かを行うときの力になる」ということを感じていただけて少しでも良い影響が与えられていればと期待しています。

《真下 愛裕ちゃん》

今回、本山さんの留学の話聞いて、留学の考え方が変わりました。元々は、語学ができる方がもっと伸ばすために留学に行くと思っていたのですが、苦手だからこそ行くという話を聞き、苦手でも挑戦できるのだと思いました。そして、国によって文化や風習が異なるため、日本の考え方が違っていたりする点にも驚きました。

私は語学が得意ではなく、留学や海外に行くことについて前向きな気持ちはなかったのですが、語学を一から学ぶことや、現地の方と話したり聞いたりすることで、本物が学べるので前向きに考えたいと思いました。そして、留学の経験が自分の自信にも繋がり、様々な文化に触れ合うことで、ビジネス・チャンスを発見したり、考え方が柔軟になり視野も広がるのではないかと感じたため、何か機会があれば私も挑戦してみたいと感じました。初めて海外に行くのが留学となってしまうと、リスクが大きいので、旅行などで海外へ行き日本以外の国へ行き世界へ目を向けていきたいと思います。

《大倉 真千子ちゃん》

教務課の本山さんから、大学生時代にカナダへ留学に行ったこと、大学卒業後にオーストラリアへワーキングホリデーに行った話を聞いて、留学することは自信につながり、チャレンジすることは力になることを学びました。

私は1週間海外研修に行ったことがあります。また行ってみたいと心で思っているのに行動に移すことが出来ませんでした。なぜ本山さんは大学卒業後また海外へ行きたいと思っていたのか質問したところ、大学生時代は英語を学ぶために留学をしたが、卒業後は英語プラスアルファ何かやりたいと思ったと回答しました。例えば英語を使って仕事をする

などです。そこで、ただチャレンジするのではなく、目的を持ったうえでチャレンジすることが大事だと思いました。現に私は、楽しかったからまた海外に行きたいな～というフワフワした考えでいたのかもしれませんが。それだけなら海外旅行に行けばいい、留学というのはお金がかかるし、しっかりとした目的を持ったうえで行くべきだと私は思いました。そして、将来自分が何をしたいのか、今どんなことが出来るのかを考えたときに、私には留学という選択肢よりやることが他に多くあることに気が付くことが出来ました。

《加藤 綺子ちゃん》

私は、劇団や日本での活動の関係で、海外留学は大学在学中も社会人になってからもなかなかいけないと思いますが、語学留学には昔すごく興味がありました。私が好きな俳優さんが、英語がペラペラで、かっこいいと思ったからです。

本山さんのお話にもありましたが、英語が話せても他にも+αで何かできなければ、就活で相手にしてもらえず、一年の休学となるとさらに印象が下がってしまうのが、厳しい世間であるなと感じました。

あと、翻訳機についてのお話がありましたが、ベトナム短期研修や韓国への旅行を通して、現地では Google の翻訳機を使用していたのですが、やはり現地の方とのコミュニケーションは翻訳機ではできないなと感じました。特に韓国は、韓国語が話せる日本人が多く、憧れとうらやましさからとても感じました。これが仕事になった時には、相手に好印象を与えたり、臨機応変な対応をしたりすることは翻訳機ではやはりできないかなと思うので、そういった場面での語学力というのは、すごく役に立つのかなと思いました。

《根本 岬君》

私は今まで留学に興味がなく、留学は海外に興味があり、英語や留学先の言語が得意で、留学資金がある人だけができるイメージを持っていました。私自身も英語が苦手で中学校1年の時の英語の担当教師が嫌いで、そこから英語が嫌いになり一切勉強をしようとしなかったため、大学生になってもほとんど英語の読み書きができません。そのため、海外に行こうとも留学をしようとも考えたことがありませんでした。

しかし、今回の本山さんの講演を聴いてそこまで堅苦しく考えるものではなく、「英語を苦手だから真剣に学びたい」「海外で経験をつけたい」と留学の入り口が広く、目的の国とやる気、資金さえ決めてあればできることを知ることができたので、少し興味を持つことができました。また、ワーキングホリデーという制度を使えば、自分のやりたいことをやりながら、生活費を稼ぐことで初期費用が少なくても海外に行くことができるため、その点は大きいと思いました。

私は、趣味がボードゲームで、本学でサークルを立ち上げるほど好きで、将来ボードゲーム関係の仕事をしたいと、自分でボードゲームのカフェを持ちたいとその目標の達成するために本学に入学したところもあったのですが、インターンシップでの経験や周りの人

からの情報を得てから英語やドイツ語が大切であることを知りその夢を断念しかけていました。今回講演を聴いたことにより、英語ができないからあきらめるのではなく留学して学ぶことも一つの手でもあったと思いました。

《小島 海璃ちゃん》

英語に対しての苦手意識が強く、上手く会話をする事が出来ないであろう環境の中で、1人でやっていける自信がなかったため、今まで、留学をするという選択肢が自分の中ありませんでした。しかし、本山さんのお話を聞いて、留学に対してのイメージが暗いものから明るいものになりました。身についた英語を活用できる場所は仕事だけではないというのを聞いて、英語に対するイメージが、今の社会において英語は出来た方が良いというプレッシャーを感じるものから、楽しみを増やす事ができるツールであるという明るいイメージになり、英語は身につけなければいけないと思っているけれど出来るのであればやりたくはないという気持ちから、今日のお話を聞いた事で、私の中の出来るようになりたいリストに、楽しい気持ちで「英語」という選択肢を追加する事が出来ました。本山さんも留学をする前は私と同じように英語が苦手だったと聞き、やっぱり同じ状況の中でも行動する人としらない人がいて、する人としらない人では自信の差だったりとかくさんの事に差が出てきてしまうのだと改めて思いました。私は確実に行動をしない側の人で、このまま流れに沿って行ってしまおうと就活もあまり行動をせずに、自分の思い描く将来に近づけずに終わってしまうのかなと焦りが出てきました。苦手でも一歩踏み出してチャレンジをする。そうすることで身につき、それが自信になって、これからの過ごし方に変化が起こる。というお話から、はじめの一歩を踏み出すこと。チャレンジすること。この事を頭にこれからの学生生活を過ごしていかなければいけないなと思いました。これからの繋がる貴重なお話を聞くことが出来て良かったです。本山さんありがとうございました。

《富永 浩太君》

今週は、本山さんに来ていただいて、留学についての話を聞きました。正直、僕は留学に関しては全く興味がありませんでした。でも聞いていくうちに本山さんの話に引き込まれていきました。本山さんも最初は英語が苦手な大学を卒業できないと思ったから行ったという理由でしたが、そこで留学して英語の力を上げて自分のために生かそうと考えられる力や行動力というものはすごいなと感じました。

卒業後もオーストリアに1年留学していて、またここでの判断力や実践力はすごいなと思いました。こういった話を聞いていく中で絶対にいつか留学をしようというところまではいきませんが、全く興味がなかった留学という世界に少し関心が持てるようになりました。人生何が起こるかわかりません。僕ももしかしたら自らのキャリアアップの為に留学を決断するかもしれません。こんな考えが頭に浮かぶようになったのも今回の話が聞けたからです。本当にいい話が聞けて良かったです。本山さんに感謝したいです。ありがとう

ございました。

《松山 結ちゃん》

留学の話をして聞いて、英語だけではなく、海外の人との交流や、自信など様々なものが得られるということが改めて分かりました。印象に残っている話は沢山ありましたが、海外は日本ではあまり考えられないボロボロな車が走っていたり、交通機関の大幅な遅れだったり日本よりもゆったりとしていたため、リラックスが出来たという話が印象深い一つの話です。こういう日本では考えられないようなものを見たり、体験したりすることで物のとらえ方などが変わってくるのではないかと思います。色々な雰囲気を感じることも視野を広くする一つだということをおもいます。学んだことの話では、チャレンジすることがその後の力となるということや、留学に培った人とのつながりは何物にも代えがたいものというのを聞いて、行動することの大切さや、人との関わりのお大切さなどを知ることが出来ました。日本でもチャレンジする場面は沢山あるのと、人との関わりも日本で出来ませんが、海外という日本とはまた少し違った環境で行動するのは得られるものが異なってくるのではないかなと改めておもいました。私は内気な性格のためあまり海外に行くという勇気がなく、海外留学にも興味はなかったのですが、話を聞いて得られるものは英語だけではなくということをお改めて分かり海外へ行くことに興味を持つことが出来ました。最後に個人的に印象深い話がおもう一つあります。翻訳機能があっても直接英語で会話することは大事だというお話で、実際に色々な海外の方と交流をしたことのある本山さんだからこそ納得しました。もともと私も翻訳機能でコミュニケーションをとるよりも直接コミュニケーションを困った方が良いのではないかと漠然とおもっていました。直接英語でコミュニケーションをとることで伝わり方も翻訳機能とはまた別のものであると思うためです。

翻訳機能は実際に日本にいられた海外の方と少しですが使ったことがありとても助かりましたし、便利に感じましたが、翻訳機能だけに限らず機械に頼りすぎず人との直接という関わりの中で感じる温かさなどを私は大切に思っています。セルフレジなど色々なものが機械化、IT化が進む社会だからこそまた、人と直接関わるということの価値が高まっていくのではないかと私はおもいます。話がそれてしまいましたが、海外留学の話をして聞いて、色々な海外で学んだことを知ることが出来、良かったです。

《後藤 拓己君》

今回本山さんの話を聞いて、留学してみたいという気持ちが改めてこみ上げてきました。授業内でも言及したように、自分は海外留学について何度か考えたことがあります。友達が春休みの間イギリスに留学しているのをTwitterで見て、自分もやってみたいな、行きたいな、行って見たらきっと見る世界や価値観が変わるんだろうなと思いつつ、お金がかかるという点となんとなく行ってみたいだけで明確な目標がない点、留学している間に生じるであろう周りとの差が怖い点が足枷となり、結局行動に移すことができませんでした。

そんな中、とりあえずまず海外を知ろうということで友達と台湾に行ったのですが、自分の中にある英単語をうまく言葉としてアウトプットすることの難しさを痛感し、同時に、これが長期滞在だったらもっと気付くことや学ぶことがあるんだろうなとより一層、留学に対して憧れの念を持つようになりました。しかしながら、やはり足枷は厳然としてあって、結局ずっと憧れるだけで終わっていくんだろうなと今まで思っていました。そして今日、本山さんから、ワーキングホリデーという制度の存在と、本学でも短期間でカナダに留学できるプログラムがあるということを教わり、これなら自分も出来るかも、行けるかも、と思いました。今回の留学生の募集は終わっているとのことだったので、次回応募したいです。今日のような機会が無ければきっとずっと憧れのままで終わっていたと思います。ありがとうございました。

《平尾 友教君》

私は、外国は怖い・不安というイメージが強く、行きたいと思ったことがあまりありませんでした。ですので、留学というワードを見たり聞いたりするだけで嫌な気分になっていました。留学や旅行で複数人と行くのはいいなと思うのですが、一人ではなかなか難しいと思います。一人で長期間カナダ・オーストラリアに留学されたことを聞いたときは自分では考えられないと思いました。英語が苦手な状態で留学されたということで、私も英語が苦手だということからもより真剣にお話を聞くことができました。一番印象に残ったのは、チャレンジすることがその後の人生において何かしらの力になるということです。自分でもわかってはいるものの、新しいことにチャレンジするのが得意でない私ですので改めて実際にチャレンジしてきた方からの言葉は心に響きました。

「成功も失敗も次に繋げるのはチャレンジした後の行動次第です」とおっしゃられたことにも自分の考えを改めようと思わせていただきました。成功から気づくこと、失敗から気づくことを大事にしていこうと思います。プレゼンで取り上げられていたワーキングホリデーなどの制度を利用して留学するのもいいなと思いました。何事にも言えることですが、日々チャレンジすることを忘れずに頑張ります。

《森田 一輝君》

今回のゼミで、留学したいと言う気持ちがまた少し高まりました。留学にかかる費用や留学している時の過ごし方など色々と面白そうでした。それに父親にお金を出してもらえないかなと思っていましたが、ワーキングホリデーを使えば、自分でアルバイトを頑張ればいけるかなと思います。しかし、留学に行くタイミングと言うものは大学生の時にいったほうがいいのかなどをもうちょっと詳しく聞いとくべきでした。しかし、留学をするならもう勢いで行く方がいいかなと思うので、親にちゃんと話して見たいと思います。これからの日本はグローバル化が進んで行く中でやはり日本語だけ喋れてもだめな気がします。しかし、英語が喋れるだけでもだいぶ違うと思います。たしかに、本山さんも英語

が喋れるだけでは今はだめと言っていました。確かに英語が喋れてもそれだけだったらなにもはじまりません。しかし、英語が喋れてなおその業界のことならちょっとは通訳できるなどのスキルを持つ事はできるきっかけになります。なので、自分は留学し、まずは日常会話程度に英語が喋れるようになりたいなあと思いました。

《笛木 河我君》

今回の本山さんからのプレゼンテーションで自分が学んだことは、留学はそんなに難しくなくということです。1度目のカナダ留学の際は語学学校への留学だったようですが、実際に見知らぬ地に行き生活するという事だけで嫌気の刺す事に加え、全く言葉の通じない世界に飛び出そうという行動力には尊敬の念を抱きました。留学に関して優秀な人間が行くという勝手なイメージを持っていた自分としては語学を学ぶ為に世界に飛び出すという事は考えもしませんでした。

またオーストラリアへのワーキングホリデーを利用した留学では、カナダ留学で英語が多少なりとも後押しになっていたと思えましたし、オーストラリアにおいてアルバイトをしていたというのは、世界を見る視点が変わる経験だと思えますし、帰ってから英語をメインとした国際交流室から教務に移っても直接的でなくとも英語を使い仕事をしている事は素晴らしいと思えました。

自分は留学を考えた事もありましたが、中学レベルの英会話もまともにできないので、留学なんてもってのほかと考えていましたが、今回の本山さんのプレゼンテーションを聞いて資金面を抜きにして一度世界を自分の目で見るとして留学を試してみるのもいいかも思えました。

《名知 慎哉》

話を聞いて思った事は、2つあります。まず1つ目は、文化の違いに驚きました。例えば、日本では時間に厳しく、電車やバスなど1分でも遅刻はありません。もし、遅刻するってなったとしても、アナウンスが流れます。それに対して、カナダでは、電車やバスやタクシーなど、遅れて当たり前という国と知ったので、驚きました。2つ目は、現地に行く大切さです。自分は、英語は好きなのですが、英語で話す事が特に苦手なので、本山さんのように、現地に行き、現地の人と関わり、少しでも、英語力、現地の言葉を覚えたいなと思いました。